

Title	哲學科學生團體記事
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1936
Jtitle	哲學 No.16 (1936. 7) ,p.241- 241
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000016-0241

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

プラトン第七書簡の所謂哲學枝論に就て

青木 巖君

プラトンの書簡全體の過去より現代に至る運命史より論じ、特に第七書簡は今日殆んど萬人が一致してその眞作なる事を認め、それが現代のプラトン研究の動向に重要な意義を有する點を説く。尙ほリツナルの如き卓拔なプラトン學者がこの哲學枝論を後代の挿入に懸ると見做す見解に對し、文體、用語、歴史的事實、思想内容の諸點よりその全くプラトンのなる事を論證す。

次いで、如何に老年期の對話篇の思想と一致するかを顧慮しつつ、此枝論の哲學的内容の發展へ進んだ。此枝論全體としては認識論とか存在論よりも寧ろ學習論としての性格を具へてゐるが、認識論的には、此書簡に於て、イデアの所謂超越性が強調されてゐると共に、エピステイメとドクサの對立が後退し、後者が擴大され前者が縮小され、本質直觀としてのヌースが最も重きを爲してゐる點に注意し、此書簡を手懸りとして、如何にソクラテスのな定義の論理よりイデアの目的論的性格の強調へ、更に殆んど神祕的な直觀へ發展したかを明かにせんとす。而して、その關聯に於て、新プラトン主義を通じてアウグスティヌスの illuminatio へ發展すべき萌芽がプラトン老年期の思想に宿されてゐたかを説く。

三田哲學會例會記事

哲學科學生團體記事

○哲學研究會

定期講座

一、「現代哲學講義」 毎週水曜正午 於七十七番教室 橋本 孝君

二、「中世哲學史講義」 毎週水曜正午 於七十六番教室 船田 三郎君

定期研究會

一、「ヴィンデルバント近世哲學史序説」講讀 毎週火曜十時 於同會ルーム 松本 正夫君

○心理教育談話會

一、「心理教育新入生歡迎談話會」五月八日 於上野京成裏落。

第二回日本應用心理學會大會報告ヲ兼ヌ。報告者 西谷謙堂君、小池喜代藏君、林純藏君。

二、「第四十四回心理教育談話會」六月十九日午後六時半、於四谷醫學部職員會館 室「指導と被指導」 佐藤 大郎君

○三田社會學會

一、「例會」(學生相互研究會)(本學期計八回) 毎週木曜 於三田エビスホール乃至大和屋、

研究題目 「社會學史」
テキスト Fezer, H.: Einleitung in die Soziologie, 1931.

今井時郎氏監修「社會學」

清水機太郎氏「個人と社會」

加田哲二氏「近世社會學成立史」

○三田哲學會日吉支部(豫科)

定期講座

一、「フォールレンダー哲學史講義」 毎週木、金曜日 於同會ルーム 松本 正夫君

二、「Jaspers, K.: Die Geistige Situation der Zeit」 譯讀 毎週月、火曜日 代講 天川 勇君

臨時講座 於同會ルーム 宮崎 友愛君

一、「美術史に就て」 六月十三日午後四時、於銀座ラスキン 守屋 謙二君